

13ひろば 編集委員会研修

日本銀行へ



今年度の13ひろば研修は日本銀行本店を見学してきました。

日本銀行本店は、明治の日本人建築家、辰野金吾氏が手掛けた日本で最初の国家的近代建築で、建物の外観・内観はなかなか魅力があり、国指定の重要文化財となっています。建物を見るだけでも価値はあります。

厳重な検査を受け入館。まずビデオ上映にて日本銀行の3つの役割(発券銀行・銀行の銀行・政府の銀行)を見たのち、本館の2階廊下に、美術館のように飾られた歴代総裁の肖像画を左右に見ながら展示室へと向かいました。



展示室では日本銀行のなりたちや、業務で使用されていた用品などが展示されています。金や銀の重さを量るために使用していた、大型秤量器もありました。



地下金庫には厚さ90センチ、重さ25トンの米国製の頑丈な金属扉が1番目にあるほか、2番目の扉は英国製、3番目は日本製と続き、厳重そのもの。

地下金庫内には1千億円の模擬紙幣が積まれています。重量は1億円が10kgなので1000倍で、重さ10トンです!

今年から導入される新紙幣のコーナーもありました。

開業当時、業務の始業・終業は拍子木を打ち鳴らして伝えていたそうで、3つは「はじめ」の合図。4つは「おしまい」の合図。最後、拍子木が4回鳴るのを聞いて、見学ツアーが終了しました。



まちかどコーナー ~なんだろう、これは?~

その7

100歳を迎える 駒沢給水塔

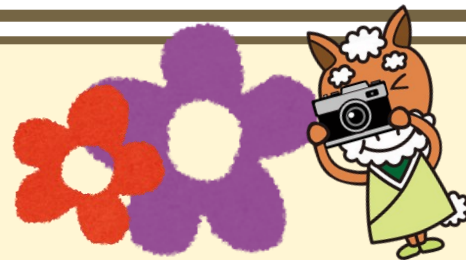
▼駒沢給水塔風景資産保存会 (愛称: コマQ)



住所: 弦巻2-41-5
※給水塔点灯日
4月: さくらまつり
6月1~7日: 水道週間
10月1日: 都民の日
12月31日~1月3日: 年末年始

文責: 駒沢給水塔風景資産保存会

弦巻の丘の上に佇む特徴ある2つの塔、それを繋ぐ橋。「せたがや百景」でもある駒沢給水塔が竣工したのは1924年3月。今年で100歳になります。
大正時代、急激な人口増加に伴い、澁谷町(現・渋谷区)の町営水道として建設されました。多摩川の副流水を砧浄水場からポンプで弦巻の丘まで押し上げ、標高と塔の高さを利用して渋谷まで自然流下で送るといふ当時の最先端技術を駆使した緻密な設計で建設されました。同じ大きさの2つの塔をトラス橋で繋いでいる給水塔は日本全国でもここだけです。さらに王冠のようなデザインを持つ塔と橋の上には装飾灯が付けられ、単なる水道施設としての機能以上の美しさも持っています。
まさに建築中だった折の関東大震災、さらに東日本大震災を経てもなお堅牢であることが証明され、土木学会の「選奨土木遺産」にも認定されています。
そして100歳を迎える今も東京都の「災害時給水ステーション(給水拠点)」としての役割を担う現役の施設でもあります(このため現在一般公開されていません。)
年に数回、装飾灯の灯る日には、いつもと違う夜景も楽しめます。



気楽にパチリ

今号テーマ: 季節の風景



ゴールドベルクさん

「絶妙な色あい」



▲ 今までに見たこともないオレンジ色。あまりの美しさにパチリ!

川田芳子さん

「わっしょい! 雨の祭礼」



▲ まさかの「驚き」でした。

ハラリさん

「暖冬の銀杏と赤いバス」



▲ 今年は黄色になるのが遅く、色の移り変わりが長かったように感じました!

応募方法

次回のテーマは「水」です
例: 海、川、雨、噴水など

二次元コードを読み込むと表示される「13ひろば」のLINE公式アカウントに、写真とともに①氏名(ご希望の方はペンネームを併記)②住所③電話番号④作品タイトル⑤作品への一言コメントをお送りください。

※現物写真での応募をご希望の方は、上馬まちづくりセンターの窓口までお持ちください。



応募締切 6月21日(金) 必着

防災士からのおはなし その7 (上馬まちづくりセンター 所長 村上 陽一)

災害関連死を知っていますか?

1月1日に発生した能登半島地震で被災された方々に哀心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

「災害関連死」とは建物の倒壊や津波など災害の被害によって直接亡くなるのではなく、避難所で病気の発症や持病の悪化などで間接的に亡くなることです。災害関連死の多くは、循環器系疾患や呼吸器系疾患です。自宅の倒壊や火災など在宅避難が困難な場合は、避難所で過ごすこととなります。快適とは言えない環境で災害関連死を避けるための合言葉が**T, K, B**です。

T (トイレ) 非常用トイレがあれば、屋外トイレに並ばず済みます。**K (キッチン)** 可能なら暖かくカロリーが高い防災食を準備しましょう。**B (ベッド)** コットなどの簡易ベッドは、床に寝るより暖かくほこりも吸いませぬ。寒い時期は、低体温症を防ぐために毛布、アルミの毛布やポンチョなども有効です。

地震が収まっても、避難生活は続くでしょう。飲料水や医薬品、予備バッテリーなど少しでも快適で健康な生活が維持できるように日頃からの備えが重要です。

人間の力では、30年以内に起こるといわれる首都直下地震や南海トラフ地震を防ぐことはできません。

しかし、準備することは可能です。まちづくりセンターには防災士が常駐しています。どうぞご相談においで下さい。

保温性抜群のアルミポンチョ!

193cm×67cmのサイズで150kgまで耐久可能!

たためばコンパクトで重さ3kgのコットです!